



福住小中学校 学校通信



福住小中学校
令和4年12月23日
文責 神元 聡

世界に目を向ける 自立する 共に生きる

【 学校教育目標 】 一人ひとりが 元気で いきいきと輝く子ども

新しい景色2023 そのための準備 4月から「新しい景色を2022」と子どもたちに語ってきた寅年も、あと1週間あまりとなりました。このスローガンは、4年前、日本チームがW杯決勝トーナメントへ駒を進めたベルギー戦で、2-0から逆転されたあの「ロストフの14秒」の苦い経験を乗り越え、何としても8強進出を果たそうと掲げられた合い言葉です。それから、4年間8強の新しい景色を見るための準備が始まりました。

今回、ドイツ戦で決勝ゴールを決めた浅野選手は「4年間、この瞬間のために一日も欠かさず準備をしてきた。それが結果に繋がっただけ。」と目標を達成するための準備の大切さをインタビューで語っています。日本チームは、クロアチアに敗れ、新しい景色を見ることはできませんでしたが、世界トップレベルのドイツやスペインに勝った選手たちは、新しい時代を私たちに見せてくれました。なかでも、試合後、選手がピッチから引き揚げた後、森保監督が1人グラウンドに戻り、深々と頭を下げていたシーンが、私は忘れることができません。W杯という舞台にたてたことで無限に広がった景色の一つ一つに対して「ありがとう」と言っているように私は感じました。24時間全てをサッカーにそそぎ準備してきたと語る森保監督。「必ず、最高の景色が見られる日が来ると思う。選手はもっと成長できる。」と気丈に語ってくれました。福住っこたちにも、「新しい景色を見つけにいこうとする気概」と「辛抱強く準備する粘り」を、今回のW杯から学んでほしいと考えます。ぜひ、1年の節目である2023年の元旦に、兎年をどんな一年にしたいか、ゴールを決め、「新しい景色」を見るために、準備をしていく2023年にしてほしいと思います。



最後になりましたが、1年間、本校の教育推進のために、ご理解、ご協力いただきました保護者の皆様をはじめ、地域の皆様、関係者の皆様、本当にありがとうございました。来年もよろしく願いいたします。

食品残渣機設置

10月27日より、給食で出た野菜くずや食材の切れ端などを肥料に変えてくれる食品残渣機を設置しました。残渣を肥料に変え、資源が循環する自然に優しい町づくりを目指しています。



校内マラソン大会

12月9日（金）校内マラソン大会が開催されました。沿道には、たくさんの地域の方が応援に集まってくださいました。低学年は、往復2km、中学年は3km、高学年と中学部は4kmと、GRADEによって違った距離が設定され、事前に立てた目標を胸にゴールを目指してそれぞれに頑張りました。

安全確保のために立哨してくださいましたPTAや地域ボランティアの皆様、本当にありがとうございました。お陰様で、無事のい大会を終了することができました。



立派な門松

今年も、地域の方々と子どもたちで、門松づくりを行いました。昔から伝わっている習わしに従って制作された門松が校門に設置されると、気持ちがキリッと引き締まると同時に、今年も暮れていくんだなああと、関守なき送る月日に驚嘆しています。